

## 2020年度事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

NPO法人フードバンクふなばし

### 1. フードバンク事業

フードバンク事業は未だ食べられるのに様々な理由で廃棄される食品を、個人や企業から寄付してもらい子育て支援団体、子ども食堂等は無償で提供している。

#### (1) フードドライブ

フードドライブとは、地域の個人や企業から余剰食品を寄付して貰う活動である。事務所への持ち込みや宅配便で届けられるほか、スーパー等の店内にきゃろくんBOX（常設型食品寄付ボックス）を設置して個人から食品の寄付を募っている。

食品寄付量推移（2021.3.25現在）

（単位キロ）

	市 民	きゃろくんBOX	企業・団体	合 計
2020年度	2,354	3,122	11,928	17,405
2019年度	711	1,786	3,043	5,540

#### ①個人からの寄付

任意団体立ち上げから3年が経過したこと、食品ロスへの関心の高まりでフードバンクふなばしの認知が上がった。年間で175回の寄付を受けた。寄付を受けた市民で住所がわかる方にはハガキにて礼状を送付している。またフェイスブックでも取り上げている。繰り返し食品を寄付してくれる市民も少なくない。

#### ②きゃろくんBOX（常設型寄付ボックス）

きゃろくんBOXは船橋市および周辺市のスーパー等に常設されている食品寄付ボックスである。既存の7か所に加え、2021年2月より株式会社マルエツの3店舗（船橋三山店、金杉店、下総中山店）への設置が始まった。マルエツの案件は船橋市資源循環課からの紹介である。企業においても食品ロス削減およびSDGs活動への取り組みが始まり、フードバンクとの連携が進んだ典型的な事例である。これからも地域の食品ロス削減に貢献する活動を企業と連携し取り組んでいきたい。それに伴いきゃろくんBOX設置が増える場合、その回収方法については検討が必要となる。

#### ③企業・団体からの寄付

災害備蓄食品の入れ替え時にフードバンクへの寄贈を考える企業が増え、問合せや食品寄付が増えている。2020年5月にはコロナ禍で販売期限が間近になり余剰となった食品の寄付について、京葉食品コンビナート協議会から松戸市長に相談があり、商工振興課を通じて受け入れた。また教育委員会保健体育課から学校給食の余剰食品のほか、地域福祉課を通じてJA市川より米1000キロの提供を受けた。地域の余剰食品の受け入れ先としてフードバンクふなばしが認知されたことを実感した1年であった。

## 2020年度食品等を寄付していただいた企業・団体一覧

昭和産業(株)、NPO法人みののむら、アサヒグループ食品(株)、船橋市内ライオンズクラブ、船橋市湊町地区社会福祉協議会、船橋市社会福祉協議会、船橋中央ライオンズクラブ、ソシオークHD(株)、生活協同組合コープみらい、石井食品(株)、京葉食品コンビナート協議会、保健と福祉の総合相談窓口さーくる、船橋市保健体育課、フードバンクちば、NTT東日本千葉西支店、生活協同組合生活クラブ生協、生活支援パルシステム千葉、JAいちかわ、日の出設備(株)、船橋市資源循環課、同危機管理課、船橋市習志野台団地自治会、千葉県環境保全推進班、タキガワコーポレーション(株)、(株)パソナ、(株)かんぼ生命、レッドホースコーポレーション(株)、千葉県中核地域生活支援まると、(株)NISSHO船橋リースセンター

## ④船橋市との連携

任意団体立ち上げ時より、船橋市資源循環課と連携しフードドライブを実施してきた。2020年度は10月の環境月間に合わせて行われ、回収された食品は、全量フードバンクふなばしへ寄付された。特筆すべきは2021年2月のフードドライブである。2021年の年明け以降急増する食品支援に食品在庫に不安を感じていたところ、船橋市資源循環課の職員からフードドライブ実施の提案があり、即実施が決まった。船橋市内の全公民館（改装工事中の1か所を除く）を回収拠点とし、集まった食品は265件、重量は約1180キロに上った。

この件は2月の船橋市議会でも取り上げられ、迅速な対応に議員からも称賛の声があがった。また船橋市の広報（3月15日号）でも取り上げられた。この寄付により現在安定した食品支援を行うことが出来ている。

## (2) 地域の団体への食品提供連携

フードドライブで集まった食品は、地域の子育て支援団体や福祉施設に提供している。地域で食の循環を作り出す事が、フードバンクの使命である。

## 支援実績推移

	2018年度	2019年度	2020年度
支援件数	41回	74回	174回
支援重量	1110kg	1742kg	8151kg

## ①子育て支援団体への食品提供

支援先団体が倍増し、支援回数は164回、7504キロとなった。主な支援先は子ども食堂であり、16箇所・総支援回数は112回と団体支援の7割を占める。船橋市内だけでなく、習志野市、市川市、白井市の子ども食堂にも提供している。現在多くの子ども食堂が新型コロナウイルスの影響で会食が出来ず、パントリー（食品配布）を実施している。自前で配布食品を調達できない子ども食堂が多く、フードバンクへのニーズが高まっている。子ども食堂の存続を支えているのはフードバンクである。これから新規に子ども食堂を立ち上げる方から食品を寄付して貰えないかという相談も寄せられている。子ども食堂への金銭的な寄付は絶えないが、それを支えるフードバンクの果たしている役割を広く伝えていく必要がある。

## ②千葉県内のフードバンクとの連携

県内のフードバンクちば、とうかつ草の根フードバンク、松戸フードバンクと情報の共有、食品の共有を行

っている。フードバンクちばとは毎月食品の受渡しを行っている。また県内のフードバンクと県内の生協が連携して行うフードドライブに今年度から参加している。2021年9月のキックオフキャンペーンに向けて実行委員会が運営されている。フードバンクはそれぞれ支援方法や対象が異なるため、定期的な情報交換を行い、互いの活動に役立てていきたい。

## 2. 食のセーフティネット事業

食のセーフティネット事業は、各家庭に食品を配送する個人支援、毎月1回、事務所に食品を取りに来てもらうパントリーピックアップを実施している。個人支援は、船橋市の関係機関からの依頼が7割を占めている。支援件数は、昨年度から倍増し492回、総重量7500kgとなった。パントリーピックアップ（拠点に食品を取りに来てもらい自身で食品を選んで持ち帰ってもらう）は、2020年4月から新たな子育て支援として開始した。今年度は、71件、支援重量は886キロとなった。

支援の推移

		2018年度	2019年度	2020年度
配送件数	回数	108回	265回	507回
	重量	1650kg	3388kg	7809kg
パントリー	回数			71回
	重量			886kg

### （1）配送による個人支援

#### ①個人支援の状況

2020年4月以降、支援を求める子育て家庭が増え続けている。船橋市児童家庭課ひとり親支援窓口、家庭児童相談室、保健と福祉の総合相談窓口さーくる、保健所保健師、スクールソーシャルワーカーとの連携を強化している。支援を希望する家庭の事情に合わせて食品を選び提供している。支援は原則として月1回、3か月間としている。配送される1回の食品の重量は1家庭あたり15キロから20キロであり、家族構成や子どもの年齢に合わせて食品を選んで箱詰めするというきめの細かい作業がスタッフにて行われている。箱を開けた時に子どもが喜ぶようお菓子を箱の一番上に詰めたり、手書きのメッセージを書いた一筆箋を添えたりと、利用者に寄り添った支援活動を行っている。食品支援を利用している年代は20歳代から50歳代まで幅広い。国からの給付金が交付された時期は、一旦支援も落ち着いたかを感じたが、2020年12月末以降は急増しており、限られた家計の中では食費を節約せざるを得ない状況が見えてくる。また、子どもの年齢が高い家庭では、教育費が家計を圧迫している傾向が強くみられる。コロナ禍にあっては、ひとり親家庭だけでなく二人親家庭でも生活に困窮する子育て家庭が増えていると感じる。また経済的に苦しいだけでなく様々な課題も併せ持っている家庭が少なくないことから、子育て家庭関係機関と連携して家庭を支えていく必要があると強く感じる。

今後、船橋市内の民間の子育て支援団体や船橋市の子ども関連の部署と連携し、支援の必要な子育て家庭の情報を共有し、連携して課題に取り組んでいけるような円卓会議の場を設立したいと考えている。

については、児童家庭課の課長に提案している。

#### ②返ってきた声

「食品届きました。ありがとうございました。大好きなジェノバソースや離乳食も沢山あって感動しました。」

不安な毎日ですが、なんとかなるように頑張りたいと思います。教えて頂いた『さーくる』にも相談しようと思います。本当にありがとうございました。」

「先ほど受け取りました。手書きのお手紙や折り紙もありがとうございました。船橋市にはひとり親になってから引っ越してきた知らない場所でしたが、今回お手紙をくれた方、折り紙を折ってくれた方、食品を寄付してくれた方、運んでくれた方、沢山の方の愛情を感じることが出来ました。皆様からのプレゼントは、おかずになるものから、し好品まで入れてくださり喜び驚きました。子ども達も大喜びで開封し、早速入っていたガムを食べています。賞味期限切れの物をいただけるのかと思いましたが、未だ数カ月持つ物ばかりでしたので大事に大事に食べたいと思います。これからは早く自立して、サポートできる側になれるよう、改めて頑張りたいと強く感じました。頑張ります。ありがとうございました。」

## (2) パントリーピックアップ

経済的に困窮していても市の子育て支援窓口にて相談できないひとり親も少なくない。そのような方向けに食品を支援できる方法は無いかと2020年4月から新たな子育て支援として開始した。当初は認知が進まず利用者は増えなかったが、12月以降SNSや口コミで情報拡散し利用者は増加傾向にある。会場については9月までは複数拠点で実施していたが、10月以降拠点を我々の事務所1か所に定めて実施している。パントリーピックアップのメリットは、利用者が自ら選んで食品を持ち帰れることである。また我々が利用者とコミュニケーションがとれることである。このメリットを活かし、船橋市児童家庭課からひとり親支援の相談員を派遣してもらうよう市と話し合いを進めている。

また今後、利用者の利便性を考慮し拠点会場を増やすことも検討していくが、食品の移動等の負担もあり金杉事務所と同様の内容での開催は難しい。様々な工夫が必要である。

## (3) 船橋市の子育て家庭以外の緊急支援の状況

原則として、支援対象者は船橋市の相談窓口を通して依頼がきた船橋市内の子育て家庭であるが、その他の市からの食品支援依頼や、子育て家庭以外の市民からの支援依頼には緊急一時支援として、原則1回限りという了解のもと食品支援を実施している。その際には、できる限り公的・民間の支援窓口や支援団体の紹介を行っている。

## 3. フードバンクの普及・啓発について

フードバンクは食品ロスに貢献すると共に、生活困窮者を支援するという福祉面の事業も行っている多面的な活動である。フードバンクを知ってもらい市民から支持してもらうために、そして近隣地域に普及していくために、情報発信をしていく。

### (1) 学習会の開催

2020年9月22日、船橋市北部清掃工場余熱利用温浴施設「メグスパ」にて、フードドライブと同時開催で「フードドライブってなあに？」という学習会を市民に向けて開催した。コロナ感染に配慮し、参加者10名ずつ、2回実施した。スタッフによる寸劇やクイズを取り入れ、フードドライブを知ってもらう取り組みとなった。

例年参加していた船橋市環境フェア、船橋市健康まつりは全て中止となった。

### (2) 視察の受け入れ

新型コロナウイルスの影響により、生活困窮者支援を行っているフードバンクの存在がクローズアップされた一年となった。船橋市の子ども記者をはじめ数多くの視察を受け入れた。視察を受け入れることはフードバンクへの理解の促進、普及につながる。これからも積極的に受け入れていきたい。

2020年4月 佐倉市生涯大学

2020年8月 昭和産業(株)CSR推進室

2020年8月 船橋市子ども記者取材

2020年8月, 11月 一橋大学李さん (卒論)

2020年10月 千葉商科大学小口助教授

2020年11月 千葉大学石井さん (卒論)

### (3) テレビ、ラジオ、新聞、船橋市広報への掲載 (別掲載あり)

2020年9月 Bayエフエム

千葉日報

2020年11月 船橋読売新聞

2020/11/18 読売新聞

Feb-21 毎日新聞

日本経済新聞

2021年2月 ニュースエブリイ

2021年3月

### (4) 地域におけるその他の活動

フードバンクふなばしが地域の一員として関わっている活動は以下の通りである。

ふなばし子ども食堂ネットワーク代表者ミーティング

定時制高校生支援プロジェクト

県内生協と県内フードバンク合同フードドライブ実行委員会

## 4. 事業を支える組織基盤と運営について

2018年5月に任意団体として発足したフードバンクふなばしは、活動開始3年目に、事務所移転、法人化という激動の年を迎えた。新型コロナ感染拡大により、食品回収量の増加、食品支援数の増加、連携機関の増加と全ての事業が拡大した。社会的な注目とともにニーズも高まり、安定的に事業を継続し市民の期待に応えられる組織作りが求められる。

### (1) 食品の管理と事務所機能の状況

#### ①食品の管理について

2020年8月に事務所兼倉庫機能を、高根町のしんばたけ店舗内から金杉の独立店舗に移転したことにより、食品の搬入搬出の利便性が向上した。また食品収納棚の配置を工夫し、発送作業時の食品の選別が効率的に行える様になっている。食品の安全確認については、食品を受け入れ時、食品発送時、定期的な棚卸し時にスタッフによる目視で行われ、発送時に安全確認を行ったことは個人カルテに記載している。棚卸しはスタッフがひ

と月に一回以上に実施し、賞味期限切れによる廃棄を最小限に抑えることができています。

引き続き安全で安心な食品を提供できるよう今後も食品の衛生的な管理に努めていく。

## ②事務所での活動

今年度は新規の有償スタッフが4名増え、総勢10名の有償スタッフ（正会員）が発送作業、食品の受け入れ、仕分け、棚卸し、事務処理、会計処理、リーフレット作成等に携わっている。また男性2名が食品回収ドライバーとして参加している。いずれの方も仕事の合間を縫って、使命感をもってフードバンクに参加してくれている。多くのスタッフがフードバンクにかかわることで、互いに切磋琢磨しつつ活動が出来ている。これからも活躍して貰えるよう常勤役員との情報共有に努めていきたい。常勤役員2名は火・木の活動に加え、金曜日にも出勤し事務作業の他、関係機関との連絡調整、来客の応対、助成金の書類作成等を行っている。ほぼ全ての活動を役員の2名が担っており、他理事への情報共有、役割分担が課題となっている。

## ③事務所機能の強化

任意団体発足時より、フードバンクふなばしの電話連絡先として携帯電話を利用してきたが、2020年8月の事務所移転に伴い、新規で固定電話を契約し、事務所にて電話とファックスが受け取れるようになった。今後一般向けの連絡先として固定電話番号を活用していくものとする。なお携帯電話番号については、関係機関からの連絡先として残していく予定である。

現在はスタッフそれぞれに個人パソコンを持参し事務処理を行っている。今後は民間の助成金を活用して法人専用のパソコンを購入し、事務処理の効率化を図りたい。また印鑑および出納帳、個人支援カルテ等の保管のため鍵付きのロッカーを新規購入する予定である。

## （2）組織基盤の整備

### ①会議について

現在は定期的スタッフミーティングが行えていない。現場で活動するスタッフの声は逐次吸い上げているが、短時間でもよいので、スタッフミーティングをひと月に一回持てるようにし、主な内容を理事に報告したい。理事会は3か月に1回開催し、事業内容の報告、課題を共有し組織基盤の強化に繋げていく。

### ②組織の現状

正会員24名（法人発足時23名）、賛助会員個人0名、賛助団体会員4団体（東魁楼、タキガワコーポレーション株、日の出設備株、船橋駅前通り法律事務所）となっている。安定した活動を継続するためには賛助会員の拡大が重要な課題である。

### ③個人情報の取り扱いについて

当法人は、船橋市の各機関を連携して支援事業を行っており、市より個人情報を電話、FAXで受け取り、その情報をもとに発送作業を行っている。理事および作業に携わる全員に、改めて個人情報の取り扱いについて共通理解徹底していく。合わせてホームページにもプライバシーポリシーとして公表していく。











